



「学校教育目標」
 絆を深め、地域社会に
 貢献できる生徒の育成
 ○自ら学ぶ ○思いやる
 ○体を鍛える

文責 竹田 圭志

いよいよ一年をしめくくる3月となりました。新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業で突然の年度の幕切れとなり、私たち教職員も戸惑いを隠せません。

2月28日(学力検査)、3月2日(面接等)で、3年生の多くが、県公立入試に全力で臨みました。まさに、自分の人生を自分で切り拓く真剣勝負だったのではないのでしょうか。本当にお疲れ様でした。入試という大きな山を乗り越えた3年生と、卒業までの残されたわずかな時間で最高の思い出づくりを…と、1・2年生をはじめ教職員も楽しみにしていました。本当に寂しい思いでいっぱいです。3年生の皆さんの気持ちを考えると、仕方のないこととはいえ、やり切れない気持ちになります。卒業式や通知票の受け渡し等についての詳細については、決まり次第学校連絡メールや電話でお伝えします。しばらくお待ちください。

ぜひ、こんな時だからこそ、生徒の皆さんには、自分を大切に、自分自身を見つめ直す時間にして欲しいです。

今年度最後の学校朝会(2/26)：放送で実施

今日は、最後の学校朝会です。3年生の皆さんへ卒業のはなむけの言葉の意味合いを込めて、『夢の実現に立ちはだかる日本人特有の人間関係』の話をしたと思います。

昨年6月に、日本人として初めてバスケットボール世界最高峰のNBAドラフト1巡目でワシントン・ウィザーズから指名され、ルーキーとしてすでにチームの中核として活躍している八村 塁という選手がいます。彼は、富山県出身。アフリカのベナン出身の父親と日本人の母親とのハーフです。高校時代にスカウトの目に留まり、18歳でアメリカのバスケットボール強豪大学へ留学します。大学入学当初、英語もままならず、チームに溶け込むことができませんでした。恥ずかしがり屋で消極的なことが災いして、出場機会はほとんど与えられなかったといえます。

当時のコーチは、彼に対して「もっと自己主張をしろ！ アグレッシブになれ！」と言いつけました。八村選手は、当時の自分自身を振り返り、日本人特有の「恥ずかしがって自己主張が苦手」が大きな壁になっていたと語っています。その後、大きな成長を見せた八村選手ですが、苦しんでいた彼を救ったのは、日本人ならではの真面目さや粘り強さだったといえます。

話は変わりますが、2月9日(日本時間の10日)世界で最も権威ある映画界の賞であるアカデミー賞のメイク・ヘアスタイリング賞で2度目のオスカーを獲得した、日本生まれ日本育ちのカズ・ヒロという特殊メイクの専門家がいます。彼は、受賞後の記者会見で「日本での体験が役に立ちましたか？」という質問に対して、「私は日本を離れアメリカ人になっている。周りに合わせ、従順であることを強要する日本の中で夢をかなえるのは難しく、そんな日本の文化に嫌気がさしてしまった。」と、八村選手同様に日本人特有の人間関係が、夢をかなえる上で障害となる点を鋭く指摘しています。

私たち日本人の良さである優しさ、それ故に周囲との摩擦を嫌って本音をぶつけ合えない。決まった枠の中でみんな揃って生活することに安心感をもつ反面、恥ずかしがってそこから飛び出す大胆な行動ができるタイプが少ない。そのあたりを、八村選手もカズ・ヒロさんも世界の大舞台で痛感したのかもしれませんが。世界で生き抜く術を知っている二人に「日本人のウイークポイント」を叩きつけられたような気がしました。

日本の将来は、若い皆さんが担っていきます。今まで以上に諸外国との垣根がなくなり、よりグローバルな社会となっていきます。日本独特の優しさや思いやりを大切にしながらも、若者一人一人が個としての考えを持ち、周囲との摩擦を恐れず、しっかりと発言や行動できる力をつけほしいと。二人はインタビューや会見を通して、日本の若者へのメッセージとして訴えかけたのではないのでしょうか。皆さんはどう感じましたか？

〈この放送での話が、令和元年度、全校生徒への最後の話となってしまいました…〉



NBAウィザーズ八村塁選手



オスカーを手に カズ・ヒロさん

令和元年度 学校評価のまとめ

1 「学校評価」：指導の重点に対する課題点と解決策

ご協力いただいた生徒アンケート、保護者アンケートの結果を参考にしながら、教職員全員で段階的に協議を重ねて本校の課題点を洗い出し、来年度に向けての解決策を導き出しました

(1) 生徒の思いが伝わる魅力あふれる教育活動の推進について

- 授業アンケートの実施など生徒の思いを客観的に把握することが実施できたことは大きなプラスである。その結果を授業力の向上につなげていくことが大切である。
- ▲「固定化された人間関係の打破への取組」は、一番評価が低かった。生徒のアンケートからは、「互いに助け合い、励まし合う雰囲気か」という問いに対して、否定的な回答の割合が高い。生徒が自分の思いを安心して表現・発信できる雰囲気作りが課題である。
- ▲生徒は着実に成長や変化を遂げている。だが、教師の大幅な入れ替わりもあり、様々な活動が前年度の踏襲にとどまる場面が少なくなかった。細部にわたる引き継ぎは勿論だが、今年度の活動の反省点を来年度の改善につなげていくことが大切である。

【来年度に向けて：解決策】

今年度後半、校長が生徒会活動など「生徒の思いを大切にした生徒主体の活動」という方向性を強く打ち出した。継続して全員職員のミッションとして取り組んでいく。そのために、様々な時間と場を活用しながら、「個として」「集団として」の成長を促していく。

(2) 地域に開かれた学校づくりの推進

- 各種便りによる「学校からの情報発信」に対する評価は、教師・保護者共に高い。
- ▲地域（校区内）の様子を十分に把握している教職員は少ない。学校・地域相互の情報発信と受信、そして、それに基づいた積極的な交流を進めていくことが大切である。
- ▲「地域の教育資源の活用、校外活動の充実」は、評価があまり高くなかった。「おがわ学」を進めていく上でも地域との連携の充実は大きな課題である。
- 学校応援団と保護者・生徒の交流行事などを新たに組み込んだことで、学校・家庭・地域との連携は深まった。
- ▲学校の教育活動に関わろうとする生徒、保護者にやや温度差がある。教職員の的確な指導（教育力の向上）を通して、生徒の成長（教育の成果）につなげることで、学校教育に対する確かな信頼を構築していきたい。また、生徒・保護者・地域の方々の協働作業を通して、保護者同士の連携をさらに促進していきたい。

【来年度に向けて：解決策】

今後は、PTAや学校応援団、学校運営協議会とも連携し、地域の人材や教育資源についての情報共有。町のにぎわい創出課など行政機関との連携。生徒と共に作り上げる「地域を巻き込んだ教育活動」や「学校行事の企画・運営」を進めていく。

(3)安心・安全・快適な学校づくりの推進

○確実な安全点検や環境整備、掲示教育の充実等、物的環境の充実による安心・安全・快適な学校づくりは推進できた。

▲からかいや不用意な一言で他人を傷つけたり、注意できずに傍観してしまうなど、生徒が直接・間接的にいじめに関わる場面がみられ、「誰もが居心地の良い学校」に至らなかった点が大きな反省点である。生徒による授業アンケートでも、教科により授業規律にばらつきがあるなど、教師の反省・改善すべき点も明確になった。

【来年度に向けて：解決策】

積極的な生徒指導をベースに集団育成に力を入れていく。生徒の些細な変化も見逃さない教師の資質（観察力・洞察力）の向上や学校全体の雰囲気改善。

衛生面で言えば、春から秋頃にかけての体育館のコウモリ対策が必要。

安全面では、「学校が安全なのは当たり前ではなく、安全は全員で築いていくもの」という意識を持ち、ソフト・ハード両面から防犯対策を見直す。

(4)信頼される教職員集団づくりの推進

○保護者アンケート結果、「保護者との連携」は概ね良好である。教職員アンケートからも意識して取り組めたことがわかる。

▲生徒に対する言葉がけなどに関して、保護者・生徒からの不満の声もあった。それら一つ一つを真摯に受け止めていく必要がある。

▲仕事の効率化による「生徒との交流の機会の確保」の項目の評価が低い。校務の見直しによる働き方改革の更なる推進が課題である。

【来年度に向けて：解決策】

風通しの良い職場づくり、働き方改革を具体的に推進していくために教員間の交流を増やし、一人が問題を抱え込まないようにする雰囲気を作る。

勤務時間の有効的な活用については、仕事の取捨選択をはじめ職員の意識改革を図る。

学校行事の思い切った精選・削減による負担軽減。

2 「学校関係者評価」

第3回学校運営協議会（2月14日）で、委員の皆様には学校の現状と「学校評価」をお伝えした上で、様々な視点から貴重なご意見・アドバイスをいただきました。

- 先生方の日々の指導に感謝する。
- 学校だよりを通して学校の教育活動は保護者・地域に発信されている。時間数が限られた中、難しい面もあると思うが、生徒数の減少をプラスにとらえ、さまざまな活動を通して生徒の成長を後押ししてほしい。先生方の負担にならないよう今後ともお願いしたい。
- 生徒の「思い」を大切にして、生徒の主体性を生かしていくことは、これからの時代大切なことだと思う。一方で、東昌寺の座禅体験がなくなったのは残念。たとえ生徒の考えであっても、事の本質（なぜ必要なのか）を教師が伝えていくことは必要だったと思う。
- 「言われたことだけをやる」「余計なことには手を出さない」そんな子供たちが年々増えてきているような気がして寂しい。「自分たちで考えさせ、実践させること」「自分の考えを人前で発表させること」は、今の子供たちに一番つけさせたい力だと感じる。大人も、「本当に成し遂げた場面で心から褒める」ことが必要だと感じる。
- 授業アンケートで子供の感じていることを把握したことは良かった。
- 授業中に落ち着かない生徒に対する支援については、保護者や地域に投げかけてみて欲しい。住民としてできるだけ協力したい。時期によっては、大学生が暇にしている時期がある。母校のためにと協力してくれる卒業生たちもいると思う。
- 部活動については学校だけの対応では大変な状況なので、町等とも連携できるとよい。先生方の負担軽減のためにも外部指導者の活用も視野に入れるべき。
- 先生方が子供と接する時間の確保を最優先して、少しでも子供のためになることを継続してほしい。
- 親の意識を変えていくことも必要。親同士の中でも、相手（子供や保護者）の存在を否定したり、教師批判を子供の前でするケースもあるのではないかな。

***回収した生徒アンケート中に、「毎年こんなアンケートをやっていても、変わらないなら意味がない」との記述がありました。必ずや、「変わった」と実感してもらえよう、教職員一同一丸となって取り組んでまいります。ご協力ありがとうございました。**